



J. FRONT RETAILING

2010年 7月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役会長兼最高経営責任者
 奥田 務
 お問合せ先 経営計画事業統括部
 グループ広報・IR担当
 TEL 03-6895-0178

2010年6月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	6月度	累計
百貨店業	▲2.9 (▲2.4)	▲2.0 (▲1.5)
スーパーマーケット業	▲3.9	▲3.3
卸売業	▲22.2	▲23.1
その他事業	▲1.2	8.2
連結合計	▲4.5	▲3.6

(注1)百貨店業の売上高は、お中元早期ギフトの売上計上を、本年・前年ともに受注時から出荷時に変更した基準による対前年増減率。

(注2)百貨店業合計の（ ）内は、松坂屋岡崎店(2010年1月31日営業終了)を除く既存店ベース。

(注3)新基準による本年売上と従来基準の前年売上(松坂屋岡崎店含む)との比較では、6月度は、百貨店合計は対前年▲11.3%減、連結合計は同▲10.9%減、3~6月度累計は、百貨店合計は同▲4.2%減、連結合計は同▲5.3%減。

2. 売上高概況

1) 百貨店業

- ・6月度の百貨店事業の売上高は、心齋橋店北館や4月に改装オープンした京都店で強化したヤング・ヤングアダルト向けファッションや名古屋駅店の売りつくしセール（6月2日スタート）が好調であったものの、お中元の早期受注ギフトが低調であったほか、梅田店の大規模改装工事の影響が加わり、大丸松坂屋百貨店直営店は対前年▲1.7%減、関係百貨店を加えた百貨店事業合計は、同▲2.4%減となった。

2) スーパーマーケット業

- ・ピーコックストアは、自由が丘店、グランパーク田町店、上池袋店、新神戸店、泉北晴美台店などが好調を維持したものの、閉鎖店舗（茶山台店・名谷店など4店舗）の影響もあり、全体としては対前年▲3.9%減となった。地区別では、首都圏が対前年▲2.6%減、関西地区が同▲4.4%減、中部地区が同▲8.6%減であった。

3) その他

- ・卸売業の大丸興業は、ホームセンター向け商材やアパレルなどが苦戦し、対前年▲22.2%減となった。

お問合せ先	J.フロント リテイリング株式会社	グループ広報・IR担当
	TEL	03-6895-0178
	FAX	03-6674-7565

2010年6月度 百貨店業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	6月度		累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	26.2	78.5	25.1	79.7
大丸 梅田店	▲33.6	▲9.3	▲25.5	▲4.7
大丸 東京店	▲9.0	▲0.7	▲7.3	▲0.6
大丸 ららぽーと横浜店	▲1.3	-	▲2.3	-
大丸 浦和パルコ店	▲5.3	-	▲3.2	-
大丸 京都店	▲7.6	▲1.2	▲2.4	4.6
大丸 山科店	▲3.5	-	▲3.5	-
大丸 神戸店	▲7.7	▲1.6	▲3.4	4.4
大丸 新長田店	▲3.8	-	▲2.0	-
大丸 須磨店	0.9	-	2.5	-
大丸 芦屋店	▲2.6	-	▲1.2	-
大丸 札幌店	8.1	3.9	6.9	4.2
松坂屋 名古屋店	▲6.0	0.7	▲3.2	▲1.0
松坂屋 上野店	▲1.1	1.4	▲0.4	4.3
松坂屋 静岡店	▲7.4	▲4.7	▲6.3	▲4.8
松坂屋 銀座店	▲12.6	54.3	▲7.7	34.9
松坂屋 高槻店	▲31.2	4.5	▲24.3	7.8
松坂屋 名古屋駅店	180.0	41.2	53.1	14.3
松坂屋 豊田店	▲1.7	▲0.8	▲1.9	▲0.9
大丸松坂屋百貨店合計	▲1.7	9.9	▲1.0	9.6
博多大丸	▲5.4	▲3.1	▲3.0	▲0.4
下関大丸	▲9.9	▲11.3	▲7.3	▲7.6
高知大丸	▲7.9	▲5.2	▲6.0	▲3.4
百貨店事業合計	▲2.4	-	▲1.5	-

(注1) 従来お中元早期受注ギフトの売上は受注時の6月に計上していましたが、今期から7月出荷分については7月に売上計上することになりました。

(お歳暮早期受注ギフトについては2009年度下期より実施済み。)そのため、上記売上増減率は、本年・前年とも新基準により修正した売上を比較した数値を掲載しております。次項2の商品別売上高も同様。

(注2) 松坂屋岡崎店(2010年1月31日営業終了)は除く。岡崎店を含めた売上高は、6月度は直営店合計対前年▲2.3%減、百貨店事業合計同▲2.9%減。3~6月度累計は、直営店合計対前年▲1.7%減、百貨店事業合計同▲2.0%減。

(注3) 新基準による本年売上と従来基準の前年の売上(松坂屋岡崎店除く)との比較では、6月度は直営店合計は対前年▲10.4%減、百貨店事業合計は同▲10.8%減、3~6月度累計は直営店合計同▲3.3%減、百貨店事業合計同▲3.7%減。

(注4) 参考数値として、大丸松坂屋百貨店のうち大丸合計は対前年▲3.3%減、松坂屋合計は同1.1%増。3~6月度累計は、大丸合計対前年▲0.6%減、松坂屋合計同▲1.8%減。

(注5) 2010年3月から、大阪法人外商は高槻店から心齋橋店へ移管、また、東京店の個人・法人外商および銀座店の個人外商は上野店に移管。

なお、外商移管の影響を除いた売上は、心齋橋店が対前年18.3%増、東京店 同▲4.8%減、上野店 同▲9.1%減、銀座店 同▲0.3%減、高槻店 同▲0.8%減。累計の売上は、心齋橋店が対前年19.6%増、東京店 同▲3.3%減、上野店 同▲6.5%減、銀座店 同0.5%増、高槻店 同▲1.3%減。

2. 大丸松坂屋百貨店直営店 商品別売上高対前年増減率（％）

	6月度	累計
紳士服・洋品	▲7.0	▲7.7
婦人服・洋品	5.9	3.9
子供服・洋品	▲10.6	▲3.5
その他の衣料品	▲11.5	▲8.3
衣料品計	1.6	0.6
身回品	▲3.8	▲3.5
化粧品	3.3	2.5
美術・宝飾・貴金属	1.9	0.5
その他雑貨	▲19.0	▲19.2
雑貨計	0.2	▲1.0
家具	▲5.6	▲3.5
家電	▲22.2	▲16.5
その他の家庭用品	▲3.3	▲1.9
家庭用品計	▲5.3	▲3.2
生鮮	▲1.8	1.7
菓子	▲1.0	0.3
惣菜	▲1.7	▲1.9
その他食料品	▲8.9	▲5.6
食料品計	▲3.5	▲1.2
食堂・喫茶	▲7.5	▲6.1
サービス	▲35.7	▲38.1
その他	▲7.3	3.4
合計	▲1.7	▲1.0

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、心齋橋店北館開設や京都店改装によりヤング・ヤングアダルトファッションが好調を持続するとともに、名古屋駅店の売りつくしセールも売上を押し上げた。紳士服・洋品はカジュアル・ビジネスともに低調であった。身回品は、売場特価を中心にアクセサリは好調であったものの、婦人靴、ハンドバッグは苦戦した。雑貨は、化粧品が3ヶ月連続で前年を上回り、美術品、宝飾品などの高額品も外商中心に好調であった。食料品は、お中元ギフトの出足が鈍かったことも影響し、前年を下回った。